

百年の森も木育てから人育てへ！

●浦高百年の森・麗風会の森活動！

昨日は「浦高百年の森／第1回現地活動（下刈）」が行われ、浦高関係者として杉山剛士校長、浦高会60名、生徒4名（バレー部2・3年生）、PTA14名、一般5名など83名が参加、隣接する「麗風会の森」



〔体験の森で行われた開会式〕



〔挨拶される杉山浦高校長〕



〔挨拶される林麗風会前会長〕

には高田直芳校長以下、浦和一女麗風会61名、農林公社2名が参加し、合計146名で汗を流しました。

午前10時、参加者が体験の森に到着し、開会式が行われ、浦高側から玉熊百年の森運営委員長、杉山校長、一女側から林麗風会前会長、兵藤麗風会会長、高田校長がそれぞれ挨拶されました。

杉山校長は中国春秋時代の齊の宰相を務めた管仲の言葉を引用され、「一年の計は穀を樹えるに如かず。十年の計は樹を樹えるに如かず。終身の計は人を樹えるに如かず。とあり

ますが、百年の森もいよいよ百年の計に向けて木から人育てに入りました。」と百年に向けてのエールを。また、麗風会の森も10年目を迎え9月2・3日の浦和一女文化祭では「麗風会の森／活動10周年記念展示」を行うそうです。

さて、今回の作業は大鎌を使って木々の間の草刈りやノコギリを使っての枝打ちです。



〔現役バレー部4人も草刈り〕



〔25回卒の金子寿男君と〕



〔春日部地区から5人+1家族〕



〔25回生記念樹〕

午前中が約1時間半、昼食後は約40分の下刈りでしたが、だいぶ綺麗になりました。昼食時には木村同窓会会長から差し入れていただいたスイカ、キュウリ、トマト、さらに11回卒の関口様からの揚げパンを美味しくいただいた12年目の夏でした。

